

日16-91 (ショートコメント)

「午後の遺言状」 ★★★★★

2016 (平成28) 年6月25日鑑賞<TOHOシネマズ西宮OS>

監督・脚本・原作：新藤兼人

森本蓉子 (老齢の舞台女優) / 杉村春子

柳川豊子 (別荘の管理人) / 乙羽信子

牛国登美江 (蓉子の旧友、かつての舞台女優、藤八郎の妻) / 朝霧鏡子

牛国藤八郎 (登美江を看護する夫) / 観世栄夫

あけみ (豊子の娘) / 瀬尾智美

森本三郎 (蓉子の夫) / 津川雅彦

矢沢尚子 (ルポライター) / 倍賞美津子

警部補 / 永島敏行

両岡大五郎 / 松重豊

脱獄囚 / 木場勝己

警察署長 / 上田耕一

警官 / 加地健太郎

清川浩二 / 内野聖陽

宿の主人 / 馬場当

1995年・日本映画・112分

配給 / ヘラルド・エース = 日本ヘラルド映画

◆人気定着中の「午前十時の映画祭」をはじめ鑑賞。本作は、第19回日本アカデミー賞最優秀作品賞やキネマ旬報ベストワンに選ばれている名作だが、阪神・淡路大震災が発生した1995年の公開であったこともあり、私は観ていなかった。また、杉村春子と乙羽信子という二人のベテラン女優の共演で、人間の老いと生をテーマにした映画と聞いては、時間的に余裕があっても、腰を上げなかったことだろう。しかし、昨年9月に直腸ガンの手術をし、人生観が大きく変わった(?)今、『午後の遺言状』というタイトルにも魅かれて映画館へ。

◆本作の見どころは、長野県の山中にある別荘に毎年避暑に訪れる老齢の舞台女優・森本蓉子 (杉村春子) と、別荘の管理人をしている柳川豊子 (乙羽信子) との会話劇。また、2人の会話劇のポイントは中盤に至って突然、結婚することになった豊子の一人娘で22歳になるあけみ (瀬尾智美) が蓉子の夫・森本三郎 (津川雅彦) の子であることが「告白」されたところからの丁々発止のやりとりになる。これを「姦通」と呼ぶのか「不倫」と呼ぶのかは別として、「まずはそれを謝りなさい」という蓉子の主張が正しいのか、それとも、「謝る必要はない。本当に愛していたんだ」「あんたは亭主より、芝居の方が大事だったんだ」という豊子の主張が正しいのか?それが最大のポイントだから、その点をしっかり考えたい。

◆本作前半のメインストーリーは、蓉子と認知症の女性・牛国登美江 (朝霧鏡子) との何十年ぶりかの再会。共に舞台女優として若い時代を過ごした2人だが、認知症を患い、今は蓉子の顔すらわからなくなっている登美江を、夫の牛国藤八郎 (観世栄夫) がわざわざ別荘まで連れてきたのは、一体なぜ?そして、約1週間の滞在中で語られるさまざまな思い出を通して、登美江の記憶が回復することはあり得るの?また、蓉子との再会を果たした登美江とその夫・藤八郎の、その後の行動とは?

◆あけみを演じた女優・瀬尾智美を私は全然知らなかったが、導入部でのフルヌードのご披露はお見事!新藤兼人脚本にこんなサービスがあることにビックリだ。さらに本作では、足入れ婚の描写がやけに生々しく描かれるので、そんなサービス(?)にもビックリ!

豊子の告白を聞いて、1日も早く別荘を出て行こうとしていた蓉子が、あけみの足入れ婚が明日だと聞き、それに参加すると言い始めたのは一体なぜ?また、足入れ婚のサマをつぶさに見学した後に、蓉子の豊子に対する態度が大きく変わったのは一体なぜ?『ひとひらの雪』(85年)等でタツプリと見せつけてくれた津川雅彦の色気は、本作ではほんのちょっとしか見せてくれないが、何とも罪な男・森本三郎を巡る、蓉子と豊子の「女同士の対決」をあなたはいかに解釈?

◆足入れ婚の翌日、ルポライターの矢沢尚子 (倍賞美津子) から牛国夫妻が心中したとの報告を受けたところから、本作ラストは、尚子の案内による蓉子と豊子の牛国夫妻の心中の足取りをたどるロードムービーになる。本作が『午後の遺言状』というタイトルにされているのは、冒頭で別荘の庭師をしていた六兵衛が棺桶とその上に石と共に短い遺言状 (法的には遺言状とは認められないもの) を残していたため。蓉子は六兵衛が棺桶の上に置いた石と同じような石を川で拾い、棚に飾っていたが、牛国夫妻の「心中の跡をたどる旅」の後に、新たに生まれた心境の変化とは?いろいろと味わい深いストーリー展開と心理描写は、さすが新藤兼人作品と感服!